

NEXT 長崎人材育成事業

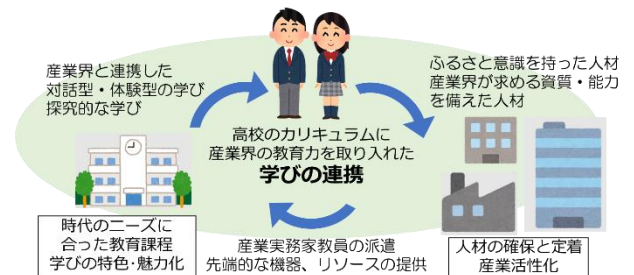
～産学官の協働による人材育成に向けて～

1. 目的

産業界と教育現場、県の関係部局が協働しながら連携する仕組みをつくり、産業教育の「学びの連携」の充実を図ることで、地域産業の持続的発展につながる人材を育成する。

2. 目指すゴール

高校のカリキュラムに産業界の教育力を取り入れた「学びの連携」を推進する。これを核として生徒と産業界、教育と社会がつながり、「地域産業で活躍したい、地元企業で働きたい」というふるさと意識の醸成とともに、産業界が求める資質・能力を備えた人材を育成する。「学びの連携」を通して、対話型・体験型の学びや探究的な学びを推進しつつ、地域産業を担う人材の育成・確保と産業活性化の好循環をつくる。



3. 連携する仕組み

- ① 産業界と教育現場、県の関係部局が協働する **連携体制の構築**
 - ・事業運営委員会：全体を統括的・横断的に連携推進
 - ・分野別協議会：各産業分野で専門高校と産業界、行政が連携
- ② **産学連携コーディネーターの配置**

各機関が組織として関わり、協働しながら「組織的かつ持続的な連携体制」をつくり、産業界の教育力・ニーズ、学校の学び・人材育成、関係部局の振興計画・予算等を連動させる。

4. 連携体制

① **事業運営委員会** 人材育成や支援の在り方、全体共通事項を協議。各分野の統括的・横断的取組・連携を推進。

事業運営委員会	
【構成員】 商工・業界団体、民間企業、金融機関、大学 県教育委員会、各高校、知事部局の関係部局	【協議内容】 ・各分野における産業界と専門高校の連携体制の在り方 ・専門高校における人材育成の在り方 ・分野を横断した連携の在り方 など

② **分野別協議会** 関係者の対話を通して、産業界が求める資質・能力を明確にし、高校のカリキュラムと地域産業をつなげる取組を行う。

農業	工業	商業	情報	水産	福祉
企業の担当者と高校の教員による定期的な意見交換や学校見学を行うなど、「学びの連携」に向けて協議					
【内容】 スマート農業など先端技術の学びの連携 等 連携先：JA中央会	【内容】 工業分野の先進的・実践的な学びの充実 等 連携先：建設・工業・情報関連団体等	【内容】 観光DXやマネジメントの学びの連携 等 連携先：長崎商工会議所連合会	【内容】 実践的な情報技術の学びの連携 等 連携先：（一社）長崎県情報産業協会	【内容】 スマート水産業や加工品製造などの学びの連携 等 連携先：長崎県漁業協同組合連合会	【内容】 介護テクノロジーなど先端技術の学びの連携 等 連携先：長崎県社会福祉協議会

○産学連携コーディネーター

- 民間経験者、校長経験者、行政職員の3名を教育庁に配置。
- **産業界・学校・行政のそれぞれ視点**から連携の基盤づくりとニーズにあった取組支援[伴走支援]を行う。
- 関係部局と産学連携コーディネーターが協働しながら「学びの連携」を支援する。

産学連携コーディネーター 【長崎型】産業教育人材の教育充実へ	
産業界の視点 高校教育課指導主事 【長尾 和弘】 > 例十八親和銀行で34年間勤務、地域振興部長を歴任 > 地元企業と協働した事業開発や地域の創生等に携わる 産業界のプロフェッショナル	
教育分野の視点 高校教育課指導主事 【梅野 剛】 > 鹿町工業高校、長崎工業高校の校長を歴任 > 専門高校の人材育成について熟知 教育のプロフェッショナル	
行政の視点 高校教育課主任主事 【柴岩 祐介】 > 県知事部局職員、企業の人材確保・育成に携わる > 教育庁と産業界等との連携強化のため、教育庁に出向 行政のプロフェッショナル	

NEXT長崎人材育成事業

これまでの専門高校と産業界のつながりは
人材確保や就職先確保といった**出口の連携**が主

産業教育の「学びの連携」の充実を図る

意見交換会、学校見学、企業見学、生徒との座談会、関係者会議
産業実務家教員による**体系的・実践的な授業を導入等**
産業界等と専門高校の連携協定を締結、**連携体制**を構築
産業界が求める資質・能力を明確にし、関係者で共有
高校のカリキュラムと地域産業の課題をつなげた**学びの連携**
地域産業で活躍したいという**ふるさと意識**の醸成

持続可能な地域産業へとイノベーションを実現できるNEXT長崎人材を育成

「学びの連携」に向けた取り組み例

1. 先生と産業界・行政がつながる 【相互理解】

○ 学校見学・意見交換会

関係企業、関係団体、行政関係者が学校に来校し、実習など生徒の様子や学習環境を見学
関係教員との意見交換会を通して、求められる資質・能力や学校・生徒の現状を対話

2. 生徒と産業界・行政がつながる 【生徒の変容】

○ ミニ企業説明会 （生徒15～40名程度＋企業関係者1～2名）

○ ワールドカフェ （生徒4～5名程度＋企業関係者1～2名）

○ トークフォークダンス （生徒1～2名程度＋企業関係者1名）

○ インタビューシップ （生徒4～5名程度＋企業関係者1～2名）

○ インターンシップ・デュアルシステム （生徒4～5名程度＋企業）

○ バイターンシップ （生徒個人と企業） 「バイト＋インターンシップ＝バイターンシップ」

3. 学びと産業界・行政がつながる 【効果の実感】

○ 関係者会議 （専門科教員と企業担当者、行政担当者）

教員と企業・行政担当者による実習や課題研究などの見学と意見交換会。

実習内容や方法、機材等を実務レベルで確認し、対話する。教育の不易と流行を踏まえつつ、引き算（時代・社会と乖離した内容の縮減）と足し算（DXなど先端的学び）について協議。

○ 出前授業

先端的事例や機器を活用した授業を実施。対話的・体験的な学び、探究的な学び。

4. 学校と産業界・行政がつながる 【関係性の継続・自走】

○ 連携協定の締結 （学校と関係団体）

より組織的で、継続的なつながりを明文化